

ギャンブル依存症は「病気」

犯罪・自殺防げ 広がる取り組み

パチンコや競馬などの賭け事にめり込む「ギャンブル依存症」。本人ばかりか家族ら周囲も巻き込んで、家庭崩壊や多重債務を引き起こし、犯罪、自殺につながる例も少なくない。正しい知識や対処法を学び、回復につなげようとする取り組みを採った。

(松田智子)

「家族で抱え込まないで」

「ギャンブル依存症は『病気』です。借金をしても、家族に迷惑をかけると分かっている、やめられない。風邪と同じでだれでもなる可能性がある」

名古屋市中4月21、22日に「ギャンブル依存症と家族の対応セミナー」が開かれた。ギャンブル依存者の家族を支援する民間団体「ホープヒル」(横浜市)代表の町田政明さん(64)の話に14家族が聴き入った。

「進行性の病気」で行き着く先は自殺か刑務所。「否認の病気」ともいわれ、本人が相談を訪れることはほとんどない。問題に気づいた家族が正しい知識を得て対応方法を学ぶことが重要」と町田さん。

「長男がパチンコをやめられず、借金を重ねている。5歳の孫の貯金箱の100円玉まで持っていく」

自助グループで支え合い

「夫が競馬につき込み、もう借金しないと誓約書も書いたのにまた借金。どうにもならず駅のホームから飛び込みそうになった」

「夫が競馬につき込み、な訴えが相次いだ。依存症の本人よりも先に家族の方が、うつや不眠になりがちだ。育て方が悪かったと自分を責めたり、借金の肩代わりを繰り返した

ギャンブル依存者の自助グループ「ギャンブラーズ・アノニマス(GA)」。

大勝。その時の優越感が忘れられなくなった。負け続けても以前の大勝が忘れられず、消費者金融で600万円の借金をつくり、会社の金を使い込んだ。

同じ問題を抱えた仲間と語り合い、互いの体験から学び合うことで自分を見つめ直し、回復を目指す。参加者は名前や職業を明かさ必要はない。

自治体や業界も対策へ乗り出す

ギャンブル依存症が背景とみられる事件が相次いでいる。大阪府で昨年7月に母親を殺害したとされる大學生は、パチスロにのめり出す自治体も出てきた。

を対象に研修を始めた。パチンコ業界も対策をとる。業界が支援する「リカバリーサポート・ネットワーク」(沖縄県西原町)が電話でパチンコ依存問題の相談を受け付けている。CMを自主規制する動きも島根県などで出ている。

名古屋市で4月にあった「ギャンブル依存症と家族の対応セミナー」。参加者からは悲痛な訴えが相次いだ。名古屋市千種区の本山生活文化会館で

- ギャンブル依存に関連した団体
- ▽ギャンブラーズ・アノニマス(GA)
http://www001.upp.so-net.ne.jp/ga-japan/
FAX046-263-3781
- ▽ギヤマノン
http://gam-anon.jp/
- ▽ワンデーポート
http://www5f.biglobe.ne.jp/~onedayport/
電話045-303-2621
- ▽ホープヒル
http://homepage3.nifty.com/hopehill/
電話045-364-5289
- ▽リカバリーサポート・ネットワーク
http://www.geocities.jp/rsnokinawa/
相談電話050-3541-6420(祝日除く月～金曜日午前10時～午後4時)

りど、他人の問題を自分の問題と思ひ込み自分を見失ってしまふ「共依存」の状態に陥ることも多い。

「周囲が世話を焼くのは、本人に解決する必要性を感じさせず、かえって病気を進行させる」と町田さんは指摘する。「家族で何とかしようと思わず、自助グループに本人を任せる。家族も同じ境遇の家族と問題を分かち合い、力をもらうことが必要」と訴える。

「ギヤマノン」は家族や友人が対象の自助グループ。東海地方では名古屋市の北区と中区で週1回、ミーティングを開いている。

ホープヒルで学び、ギヤマノン名古屋にも参加している50代の女性は「夫がパチンコに熱中したのは私に落ち度があったから」と自分を責めていたが、正しい知識を得て、同じ問題を抱える家族に話を聞いてもらって元気になった。夫はまだパチンコをやめられないけれど、今は夫に左右されず、自分の人生を生きようと思える」という。

「公営ギャンブルを営む国や自治体は、率先して相談窓口の充実や治療、対策のネットワークづくりを進めなければならない。パチンコ業界も景品換金システムの廃止やCM規制などの改革が必要だ」と訴えている。

市町村や医療機関の相談員